

みなと外国人コミュニティ パートナー制度について

港区役所地域力推進室

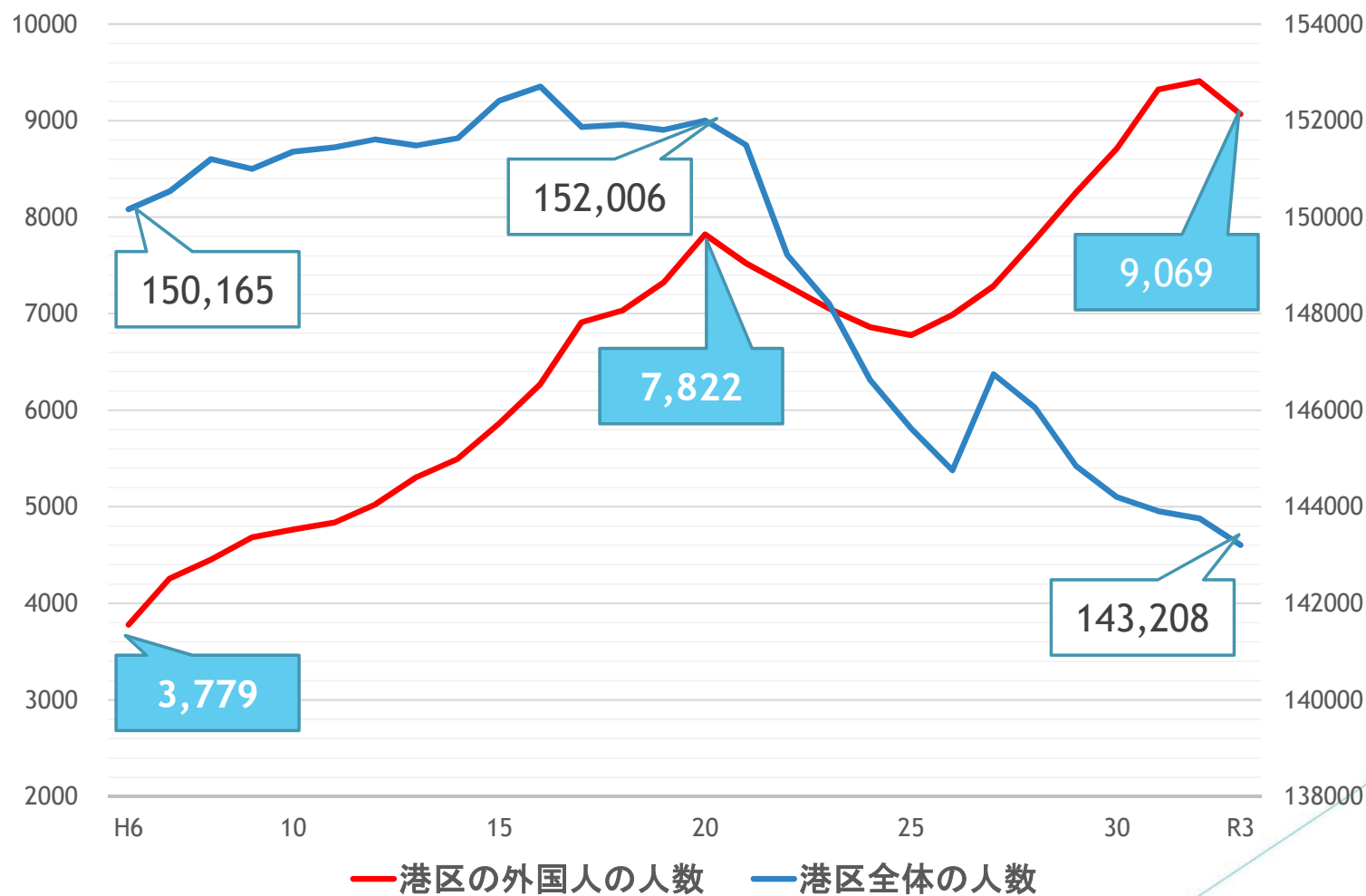
2023年1月16日（月曜日）

港区の特徴

港区に住んでいる外国人の人数・出身国など



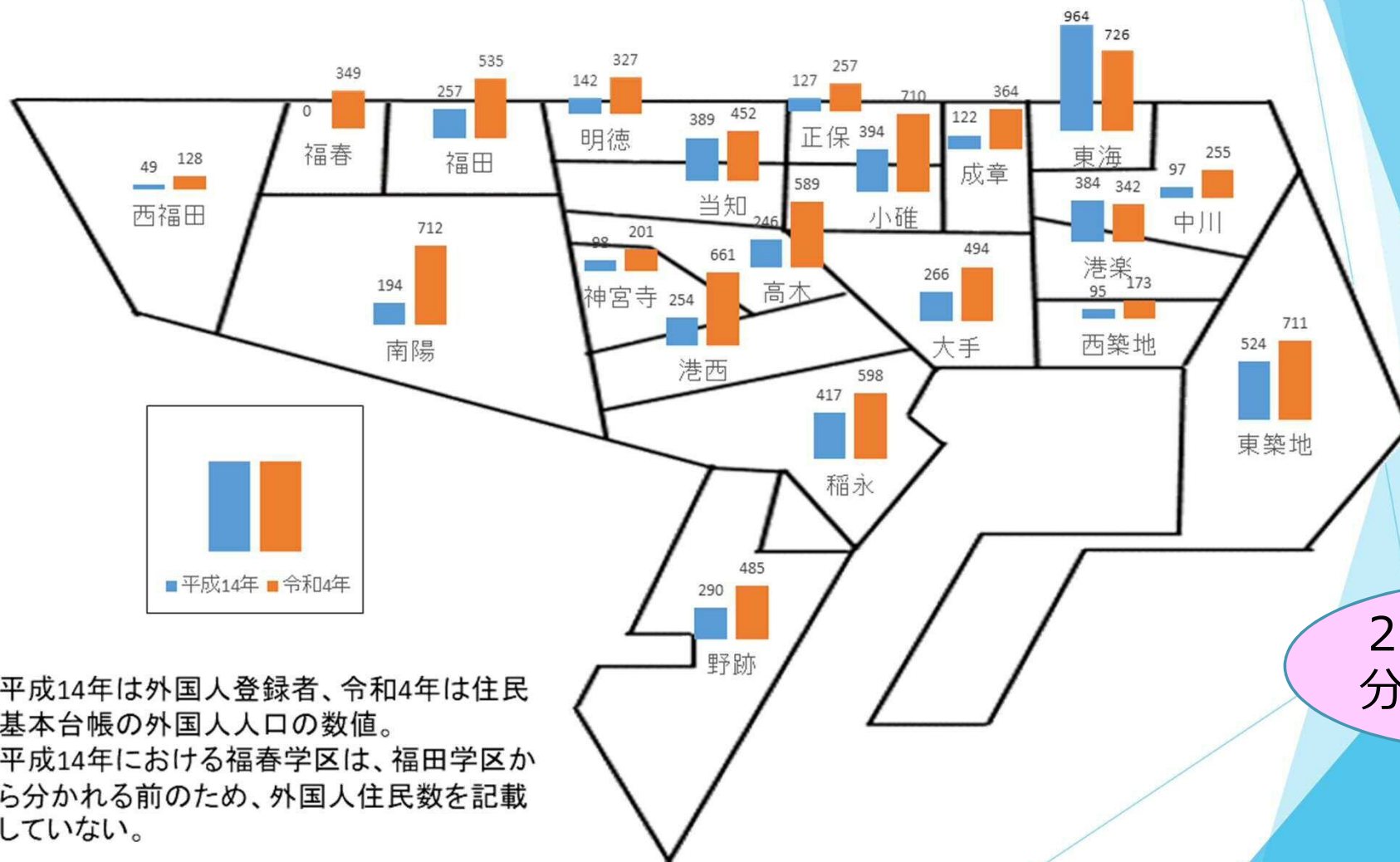
港区の特徴①：「外国人住民の増加」



外国人居住者
16区中
1位

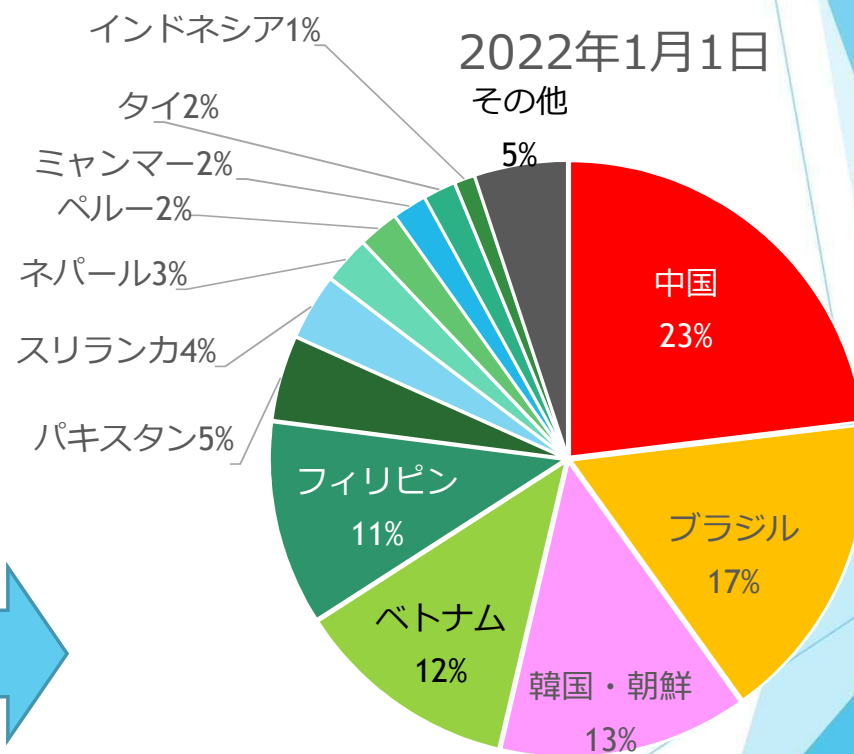
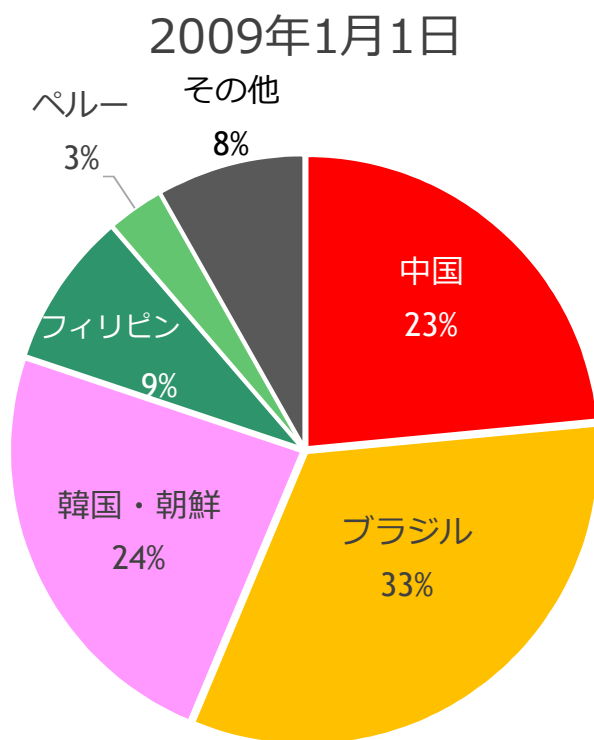
約16人に一人は
外国人住民！

港区の特徴②：「外国人住民の散住化」



20学区に
分散して居住

港区の特徴③：「外国人住民の多国籍化」



約65か国

港区の特徴④：「長く住んでいる外国人が多い」

子育てをする外国人住民の増加



2022年1月1日	18歳以下の 外国人の人数
港区	1,576人（1位）
南区	917人（2位）
名古屋市	9,742人（-位）

港区(年間)

新生児 約1,000人

外国人の新生児

約100人(10%)

港区役所の取り組み

外国人と日本人のつながりづくり



○港区の今までの取組み

長く住む外国人
が多い

外国人住民が地域コミュニティの一員になってもらえるような施策を推進



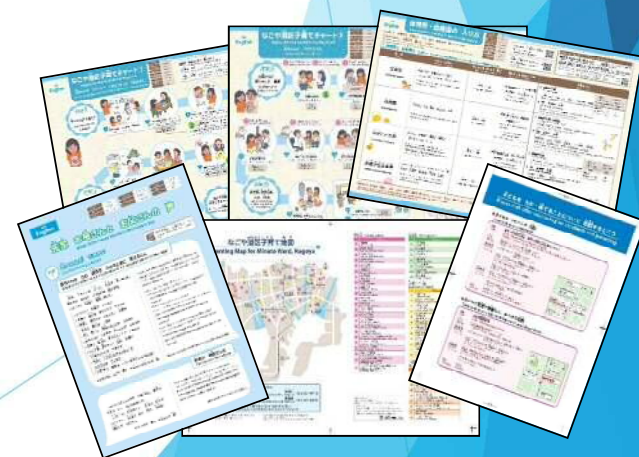
令和元年度 地震と津波

地震、津波の対策をきっかけに
外国人住民と
地域が話せるように



令和2年度 なごや港区子育てチャート

子育てを通して
外国人住民が
行政・地域となじめるように



パンフ作成等の際に
意見を聞き取るための
「外国人協力者」制度

- ・各学区からの紹介
- ・約20名

○港区の今までの取組み

外国人に日本語の大切さを知ってもらう

令和3年度

- ・使おう！日本語
～生活をするとき～
- ・使おう！日本語
～子どもを育てるときなど～

日本語を覚えることのメリットを紹介
するパンフレット

⇒地域において日本語での
コミュニケーションができるように



○港区の今までの取り組み

日本人に「やさしい日本語」を使ってもらおう

令和3年度

みんなで使おう！やさしい日本語

外国人と日本語でコミュニケーションをとる
ときのポイントを紹介

⇒地域において「やさしい日本語」での
コミュニケーションができるように

みんなが「やさしい日本語」を
使って話をする港区へ



港区の課題

外国人住民の地域コミュニティへの参画への障壁



○港区の課題

外国人住民が地域コミュニティの一員に十分になっていないと言えない

▶ なぜ地域コミュニティの一員になっていないのか

外国人住民は

町内会のことをよく知らない

地域の活動に対してニーズを伝えたり、関与したりすることが難しい



地域と行政が
補完しつつ行う活動

地域の役員と話せない
と関わりづらい

町内会のことわかり、地域の役員と話すことができる
外国人住民を増やしていく必要

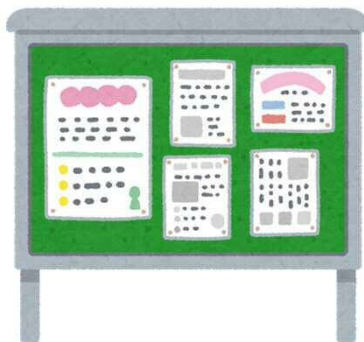
○港区の課題

外国人住民が地域コミュニティの一員に十分になっていないと言えない

▶ なぜ地域コミュニティの一員になっていないのか

外国人住民は

地域の活動に関する情報の入手が難しい



地域に関する活動に関する情報を入手しやすくする必要

みなと外国人 コミュニティパートナーの役割



外国人住民と地域をつなぐ

「みなと外国人コミュニティパートナー」制度

①「みなと外国人コミュニティパートナー制度」とは

- ▶ 外国人住民と地域、行政等を結ぶ橋渡し役
- ▶ 名古屋市の地域コミュニティ制度や港区の外国人住民を取り巻く現状等についての研修



②地域の役員とみなと外国人コミュニティパートナーの話し合う場の創設

- ▶ コミュニティパートナーと地域の役員でニーズや課題意識を共有
- ▶ 改善に向けた話し合い
 - ・ 外国人住民の目線から、地域活動に関するニーズ・改善案
 - ・ 外国人住民としての知識・経験を、地域活動に反映



外国人住民が参加しやすい地域活動へ改善を図る
外国人住民へ情報を伝える際のポイントを共有する



**外国人住民を
地域コミュニティの力に**